

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年7月13日(2006.7.13)

【公表番号】特表2002-514397(P2002-514397A)

【公表日】平成14年5月21日(2002.5.21)

【出願番号】特願2000-547969(P2000-547969)

【国際特許分類】

C 12 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	31/70	(2006.01)
A 6 1 K	39/39	(2006.01)
C 07 H	21/04	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)

【F I】

C 12 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	31/70	
A 6 1 K	39/39	
C 07 H	21/04	
A 6 1 K	45/00	

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月8日(2006.5.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】抗原特異的免疫応答を誘導するための医薬の製造のための、少なくとも8ヌクレオチドを有するCpGオリゴヌクレオチドの使用であって、抗原特異的免疫応答を生成するために、該CpGオリゴヌクレオチドは、被験体に投与され、該被験体は、該CpGオリゴヌクレオチドが該被験体に投与された少なくとも3日後に抗原に曝露される、使用。

【請求項2】前記抗原が、前記CpGオリゴヌクレオチドが前記被験体に投与された少なくとも4日後、少なくとも7日後、少なくとも15日後または少なくとも30日後に投与される、請求項1に記載の使用。

【請求項3】前記抗原が抗原をコードする核酸である、請求項1に記載の使用。

【請求項4】前記抗原が、細胞、細胞抽出物、タンパク質、ポリサッカライド、ポリサッカライド結合体、脂質、糖脂質、炭水化物、ウイルス抽出物、ウイルス、細菌、真菌、寄生生物およびアレルゲンからなる群より選択される、請求項1に記載の使用。

【請求項5】前記抗原がアレルゲンである、請求項1に記載の使用。

【請求項6】前記抗原が感染性細菌、感染性ウイルス、および感染性真菌からなる群から選択される感染性生物体に由来する、請求項1に記載の使用。

【請求項7】前記被験体が前記抗原に能動的に曝露される、請求項1に記載の使用。

【請求項8】前記抗原がコロイド分散系と組み合わせて送達される、請求項7に記載の使用。

【請求項9】前記コロイド分散系が、高分子複合体、ナノカプセル、マイクロスフェア、ビーズおよび脂質ベースの系からなる群から選択される、請求項8に記載の使用。

【請求項10】前記脂質ベースの系が水中油型エマルジョン、ミセル、混合ミセル

およびリポソームからなる群より選択される、請求項 9 に記載の 使用。

【請求項 11】 前記抗原と組み合わせてアジュバントが投与される、請求項 7 に記載の 使用。

【請求項 12】 前記被験体が前記抗原に受動的に曝露される、請求項 1 に記載の 使用。

【請求項 13】 前記被験体が癌を発症する危険性がある、請求項 12 に記載の 使用。

【請求項 14】 前記被験体がアレルギー反応を発症する危険性がある、請求項 12 に記載の 使用。

【請求項 15】 前記被験体が喘息である、請求項 12 に記載の 使用。

【請求項 16】 前記 C p G オリゴヌクレオチドが 8 ~ 100 ヌクレオチド長である、請求項 1 に記載の 使用。

【請求項 17】 前記 C p G オリゴヌクレオチドがホスホロチオエート修飾またはホスホジチオエート修飾であるリン酸骨格修飾を含み、該リン酸骨格修飾が好ましくは該 C p G オリゴヌクレオチドの 5' 末端または該 C p G オリゴヌクレオチドの 3' 末端で生じる、請求項 1 に記載の 使用。

【請求項 18】 請求項 1 に記載の 使用であって、

ここで前記 C p G オリゴヌクレオチドは少なくとも以下の式を含む配列を有し：

5' X₁ X₂ C G X₃ X₄ 3'

ここで、X₁ X₂ は、G p T、G p G、G p A および A p A からなる群から選択されるヌクレオチドであり；そして X₃ X₄ は、T p T、C p T および T p C からなる群から選択されるヌクレオチドであるか；または

ここで前記 C p G オリゴヌクレオチドは少なくとも以下の式を含む配列を有し：

5' T C N T X₁ X₂ C G X₃ X₄ 3'

ここで、X₁、X₂、X₃ および X₄ は、ヌクレオチドであり、N は、約 0 ~ 25 のヌクレオチドから構成される核酸配列である、使用。

【請求項 19】 請求項 1 に記載の 使用であって、ここで前記 C p G オリゴヌクレオチドは少なくとも以下の式を含む配列を有し：

5' T C N T X₁ X₂ C G X₃ X₄ 3'

ここで、X₁ X₂ は、G p T、G p G、G p A および A p A からなる群から選択されるヌクレオチドであり、そして X₃ X₄ は、T p T、C p T および T p C からなる群から選択されるヌクレオチドであり、そしてここで N は、約 0 ~ 25 のヌクレオチドから構成される核酸配列である、使用。